PEOPLE

人の窓

みなさんの活躍紹介します

「ゼロイチ」に挑戦し続ける

久健興業株式会社　代表取締役
NPO 法人ちとせ＆ BEYOND　副理事長

山口 健（やまぐち たけし）さん



平成 16 年に 23 歳の若さで久健興業を創業。建設業を中心に、ベトナムとインドネシアからの技能実習生の受け入れや、就労継続支援Ｂ型事業所の運営など幅広く活動中。福祉・国際交流・地域イベントに走り回る、まちの熱血リーダー。

――外国人との共生には、どんなことが大切だと考えますか。

一人一人の人となりを理解しながらコミュニケーションをとることが大切です。当社には32人の外国人がいて、みんなサッカーが好きなんです。そこで、当社で外国人だけのサッカーチームを作ることになりました。外国人を活用している市内企業と一緒に、千歳外国人リーグをつくる構想もあります。

試合を見に来た人と交流したり、ＳＮＳで試合の様子を発信していけば、「千歳にはサッカーがうまいベトナムの子がいるらしい」と、一人一人が個人として認識されていきます。草の根活動にはなりますが、「何か外国人の子って良くない？」と多くの人に思ってもらえることを期待しています。

――今年は大相撲の湊川部屋の合宿も誘致されました。

湊川親方が講演に来てくれたことをきっかけに、オフシーズンの千歳合宿、さらに子どもたちとの触れ合いの機会として、合宿最終日にわんぱく相撲大会をＮＰＯ主催で開催しました。土俵は千歳神社にあったものを当社が造り直しましたが、来年はプロ力士のパワーに耐えられる土俵を骨組みから造り、千歳神社に奉納する予定です。

相撲は日本の文化で「心技体」の教訓もあり、今の時代の子どもたちだからこそ、とても必要だと私は思います。千歳のまちには土俵があり、わんぱく相撲大会があって湊川部屋の合宿もある。これで子どもの相撲クラブができたら、道内のほかの相撲クラブとともに北海道大会を開催してもよいし、もしかするといつか千歳からプロ力士が生まれるかもしれませんよね。

――次々と新しいまちおこしのアイディアを生む極意とは。

まずはワクワクするもの、それをやることで誰かが喜んだり、夢を追うきっかけになるものをイメージします。イメージして、こう点と点が繋がったらどうかなとか、これは難しいなとか、そうして0（ゼロ）と1（イチ）、スタートとゴールが決まります。そのゴールが「みんな幸せな気持ちになっているだろうな」と思えたら、絶対に行動に移すんです。

それによって人に嫌われることもあるかもしれませんが、嫌われる勇気を持つことも大事。だからこそ、ゼロイチの挑戦ができると思っています。

第 49 回

先生、教えて！

CHITOSE CITY HOSPITAL
市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000　内線 8138

妊婦さんの RS ウイルスワクチン



市立千歳市民病院
小児科　主任医長　**原 和也**

2026年度から妊婦さんへのRSウイルスワクチンの予防接種が定期接種の対象となりました。

RSウイルスは乳幼児が感染すると、発熱、鼻水、咳などのいわゆる風邪の症状が出現し、そのうちの約3割では咳が悪化し、ゼーゼーしたり、呼吸困難を呈することがあります。特に生後1～2か月の赤ちゃんでは、飲みが悪くなったり呼吸をお休みすることがあり、注意が必要です。2010年代には、年間12万人～18万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、3万人～5万人が入院を必要としました。

これまでRSウイルス感染の予防は、早産や、心臓や肺の機能が弱いなどの重症化リスクが高い乳幼児を対象に、RSウイルスの抗体製剤の注射が行われてきました。この注射は月1回注射をしなければならない製剤が使用されてきましたが、2024年に5～6か月の有効期間がある製剤が承認されました。残念ながらこの製剤は日本では薬価が高く、すべての乳幼児に対する保険適用はありません。

RSウイルスワクチンは妊婦さんが接種することによって、胎盤を通じて赤ちゃんにお母さんの体で作られたRSウイルスの抗体を渡すことができ、生後180日までの有効性が確認されています。接種してから抗体が十分に作られるまでは2週間程度必要です。妊娠28週から36週6日までが定期接種の対象となっていますので、赤ちゃんをRSウイルスから守るための予防接種をお願いします。